

米国農務省穀物等需給報告(2014年4月9日発表のポイント)

平成26年4月10日

大臣官房食料安全保障課

米国農務省は、4月9日(現地時間)、2013/14年度の11回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2013/14年度の穀物全体及び大豆の生産量は消費量を上回る見込み－

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:24億5,214万トン(対前年度比 8.3%増)
- ② 消費量:24億1,359万トン(対前年度比 5.6%増)
- ③ 期末在庫量:4億9,006万トン(対前年度比 8.5%増)
期末在庫率:20.3%(対前年度差 0.5ポイント増)

【主な品目別の動向】

小麦 :生産量は、米国で乾燥等の影響により減少となるものの、カナダで夏の好天等により単収が上昇し史上最高、ロシア、ウクライナ等旧ソ連諸国、EU等で増加となることから、世界全体で前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量もインド等で増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:7億1,252万トン(対前年度比 8.5%増)・・・ロシア、カナダ、EU等で増加、米国等で減少
- ② 消費量:7億244万トン(対前年度比 3.5%増)・・・インド等で増加、米国、EU等で減少
(前月に比べ、中国等で下方修正)
- ③ 期末在庫量:1億8,668万トン(対前年度比 5.7%増)・・・カナダ、中国等で増加、インド、米国等で減少
期末在庫率:26.6%(対前年度差 0.6ポイント増)

とうもろこし :生産量は、米国で例年より涼しい夏と生育期間の伸長により単収が上昇し史上最高、ウクライナ等旧ソ連諸国、中国、EU等でも増加となることから、世界全体で前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量も、米国、中国等で増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:9億7,390万トン(対前年度比 12.3%増)・・・米国、旧ソ連諸国、中国等で増加、ブラジル等で減少
(前月に比べ、ブラジル等で上方修正)
- ② 消費量:9億5,030万トン(対前年度比 9.8%増)・・・米国、中国、EU、旧ソ連諸国、メキシコ等で増加
- ③ 期末在庫量:1億5,800万トン(対前年度比 17.6%増)・・・米国、中国、旧ソ連諸国等で増加、ブラジル等で減少(前月に比べ、ブラジル等で上方修正、米国等で下方修正)
期末在庫率:16.6%(対前年度差 1.1ポイント増)

米(精米) :生産量は、東南アジアを中心に増加することから、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る見込み。また、消費量も中国、インド等で増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、消費量の伸び率が期末在庫量の増加分を上回ることから、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量:4億7,557万トン(対前年度比 0.9%増)
- ② 消費量:4億7,456万トン(対前年度比 1.5%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量:1億1,119万トン(対前年度比 0.9%増)
期末在庫率:23.4%(対前年度差 0.1ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国で収穫面積が減少するものの単収の上昇により前年度と比べて増加、ブラジルで収穫面積の増加により史上最高、アルゼンチンで単収の上昇と史上最高の作付面積により増加となること等から、世界全体で前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量も中国、アルゼンチン等で増加し史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:2億8,405万トン(対前年度比 5.9%増)・・・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加
- ② 消費量:2億6,900万トン(対前年度比 4.0%増)・・・中国、アルゼンチン、ブラジル等で増加
- ③ 期末在庫量:6,942万トン(対前年度比 20.0%増)・・・アルゼンチン、ブラジル等で増加
期末在庫率:25.8%(対前年度差 3.4ポイント増)

担当:大臣官房食料安全保障課 松井、浅田 (内線3805)

(参考1)

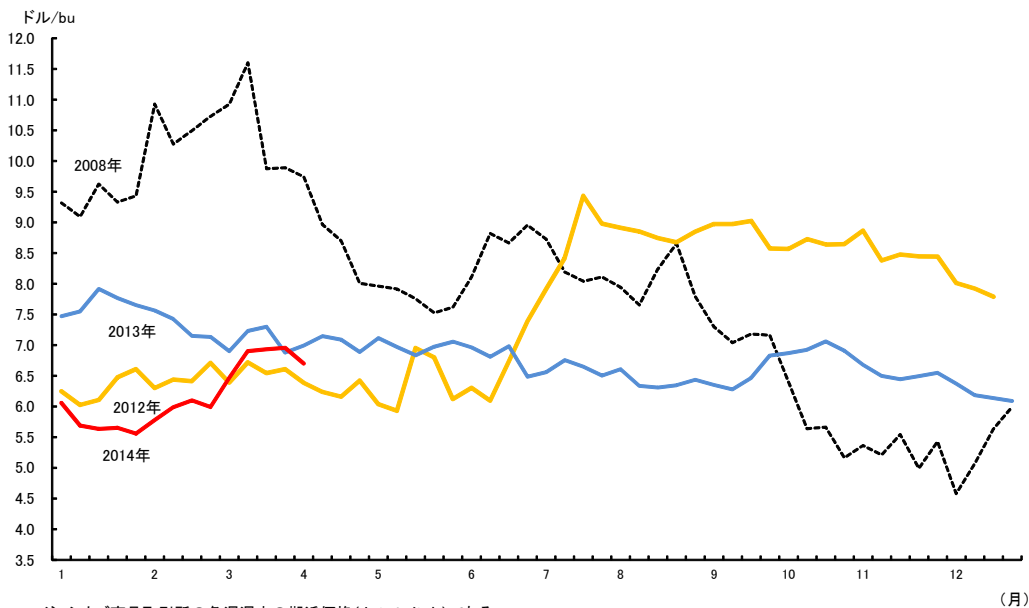
平成26年4月10日
大臣官房食料安全保障課

世界の穀物の価格動向(2014年)

- 小麦:6.70ドル/bu(前年同時期の価格:6.99ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、米国冬小麦地帯での乾燥の継続から一旦値を上げたものの、2月以降の降雨・降雪による乾燥懸念の緩和から7ドル/bu前後に値を下げた。3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったものの、4月以降、米国で冬小麦の凍害や乾燥による作柄の悪化懸念、春小麦の作付け遅れ等から6ドル/bu台後半から7ドル/bu台前半で推移した。6月以降は中国の旺盛な輸入需要があったものの、米国産冬小麦及び春小麦、北半球の小麦生産地での収穫の進展と世界全体の豊作見込みから、6ドル/bu台半ばで推移。9月中旬以降、アルゼンチンの霜害による作柄不安や四半期在庫報告での米国産への旺盛な飼料用需要等から一時7ドル/bu台に値を上げたものの、10月中旬以降は、2014/15年度の米国産冬小麦等の初期生育が順調なことや、カナダ、豪州の潤沢な輸出余力から値を下げ、その後も、カナダの史上最高の生産量見込み、豪州の生産量の上方修正等による世界的に豊富な供給量見込みや米国産の低調な輸出需要等から2014年1月には5ドル/bu台に値を下げた。

2014年2月中旬以降、2014/15年度の米国産冬小麦の乾燥・凍害による作柄悪化懸念や2月下旬のウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念から値を上げ、現在は6ドル/bu台後半で推移。

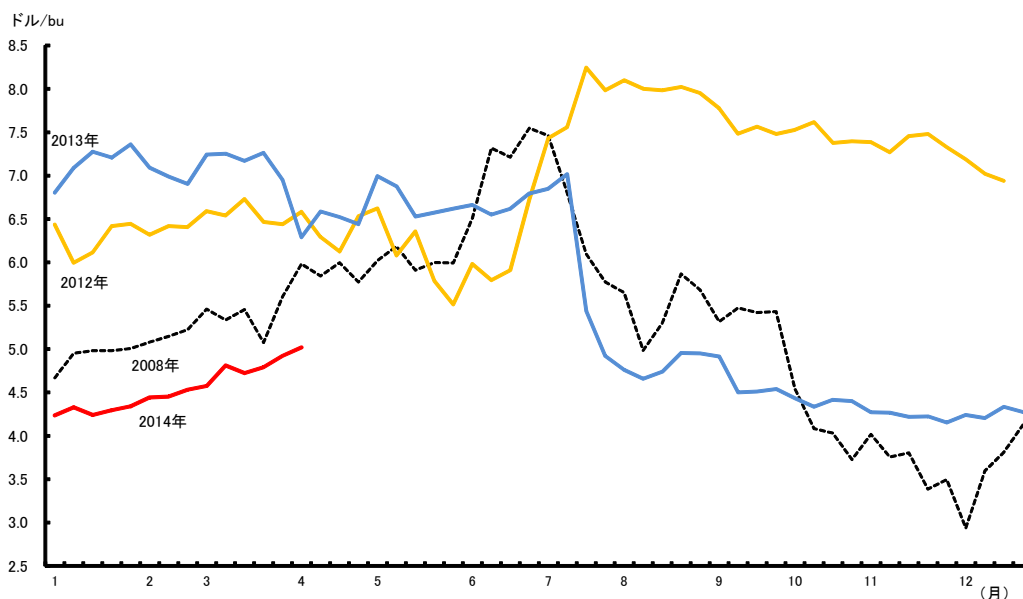


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし:5.02ドル/bu(前年同時期の価格:6.29ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、米国のエタノール生産は減少したものの、飼料用需要の増加やアルゼンチンの高温・乾燥天候から7ドル/bu台前半に値を上げた。2月以降、米国の輸出需要の不振やブラジルの豊作見込みから一旦値を下げたものの、3月以降、飼料用需要、エタノール生産の増加等の需要回復見込みから7ドル/bu台前半に再び値を戻した。その後、3月末の米国四半期在庫報告での市場予想を上回る在庫から値を下げたものの、4月中旬以降、米国で低温多雨型の天候による2013/14年度の作付け遅れから値を上げた。5月中旬には天候の回復による作付けの進展から6ドル/bu台後半に下げたものの、その後は旧穀の需給の引き締めから、7ドル/bu前後に上昇した。7月中旬以降、2013/14年度の米国産の豊作見込みから、4ドル/bu台後半に大きく下落し、8月以降も、米国産の生育の遅れや米国コーネルトの降雨不足傾向があったものの、収穫の進展と豊作見込みから値を下げた。さらに11月以降、米国環境保護局のエタノール向け使用義務量の引き下げ提案や、収穫が終了し米国産とうもろこしの大豊作が確定的となったことから4ドル/BU台前半まで低下した。

2014年1月半ば以降、堅調な輸出需要や2月下旬のウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念等から値を上げ、現在は5ドル/bu台前後で推移。

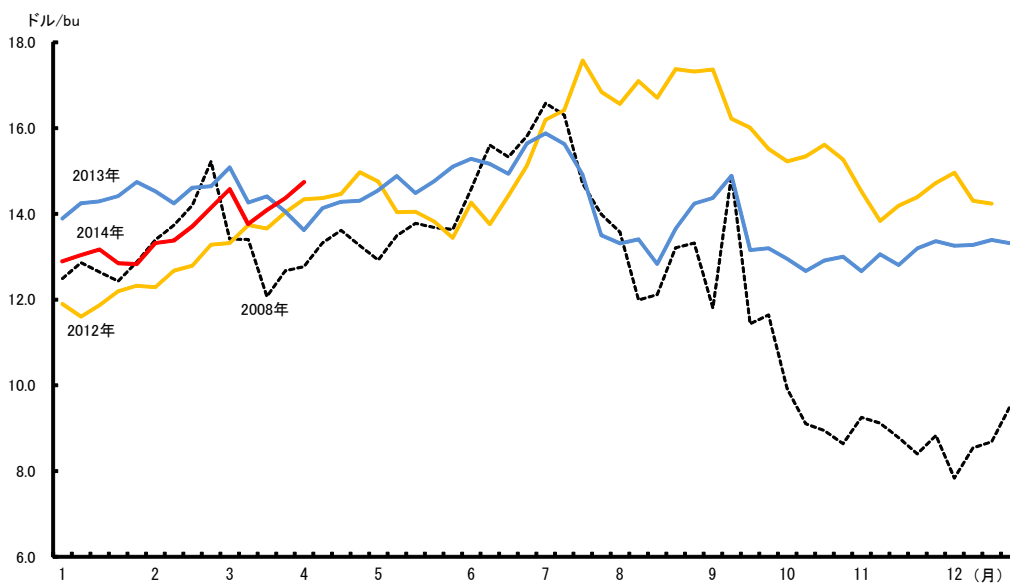


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● 大豆:14.74ドル/bu(前年同時期の価格:13.62ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、好調な輸出成約やアルゼンチンの高温・乾燥天候から値を上げたものの、2月以降、アルゼンチンの天候回復やブラジルの豊作見込みから一時値を下げた。その後、米国の堅調な輸出需要から値を戻したものの、3月中旬から南米の収穫の進展や3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったことから値を下げた。4月中旬以降、米国で低温多雨型の天候による2013/14年度の作付け遅れや、旧穀の需給の引き締めから16ドル/bu台前後に上昇したものの、7月中旬以降、米国産の豊作が見込まれたことから、13ドル/bu台後半に下落。8月以降、米国産の降雨不足による作柄への影響が懸念され14ドル/bu後半まで値を上げたものの、9月中旬以降は、降雨による作柄の回復や収穫の進展から値を下げた。11月半ば以降、南米では作付けが順調に進み、その後の生育も良好であったことから12ドル/bu台後半から13ドル/bu台前半で推移した。

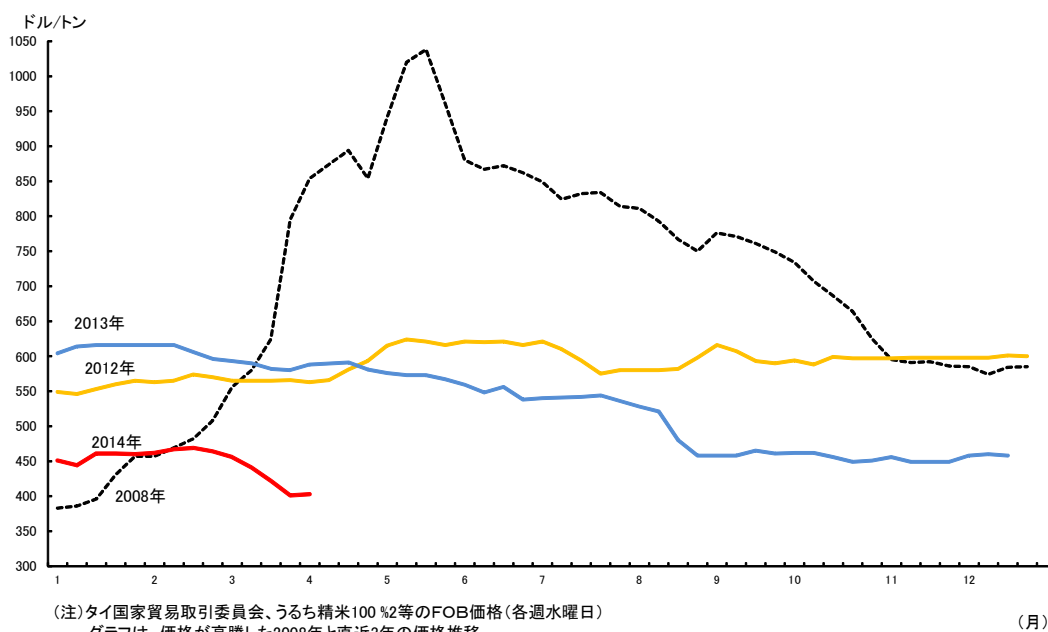
2014年2月以降、堅調な輸出需要やブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から値を上げ、現在は14ドル/bu台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

- 米: 403ドル/トン(前年同時期の価格: 580ドル/トン)
(価格は、タイ国家貿易取引委員会における4月第1水曜日のFOB価格である。)

2013年1月以降、輸出向け供給量の引き締めから価格は堅調に推移したものの、2月以降、タイにおける政府在庫の放出や輸出需要の動きが鈍いこと等により、500ドル/トン半ばから後半で推移した。8月中旬以降は、タイにおける更なる政府在庫の放出により400ドル/トン半ばで推移。



(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年1月	2月
113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	89.18	93.21
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
94.75	97.71	101.08	97.43	99.71	97.87	99.24	97.85	100.03	103.46
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
103.94	102.13	102.27							

注:東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年1月	2月
49.49	41.59	85.22	94.68	51.29	61.77	53.05	46.34	44.24	44.28
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
47.52	44.84	43.75	43.02	46.13	44.42	48.17	54.91	54.37	56.00
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
52.04	49.14	46.17							

注:米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)

19年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年1月	2月
56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	94.83	95.32
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
92.96	92.07	94.80	95.80	104.70	106.54	106.24	100.55	93.93	97.89
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
94.86	100.68	100.76							

注:内閣府「海外経済データ(平成26年3月)」

26年3月の原油価格(WTI)は「U.S. Energy Information Administration」の3月28日までの週別価格の平均値。